

レジ機能を標準搭載し 携帯電話販売の基幹システムに進化

携帯電話販売支援ソフトのデファクトスタンダード「テレホンマスター」の最新版、Ver.8.0が11月に発売される。新バージョンの最大の特徴は、レジ機能の標準搭載だ。これによりデータ入力作業の効率化が可能になるだけでなく、基幹系システムとの連携も実現できる。

すでに人口普及率が70%を越え、成熟化が進む携帯電話市場。厳しさを増す市場環境の中で、業務効率化を図る手段として関係者の注目を集めているのが、携帯電話販売業務支援ソフトの「テレホンマスター」だ。

この製品は、入庫時点で登録した端末の製造番号をベースに端末単位で販売管理を行うもの。このシステムを導入することで、事業者への手数料の請求額や傘下の販売店に対する手数料の支払い額などの算出から、支払い請求伝票の作成などを簡単な操作で実行できる。

携帯電話販売の現場を踏まえた勝手のよさと安価な導入コストが高く評価され、約1000社の携帯電話販売代理店／携帯電話ショップが導入している携帯電話販売店向け業務ソフトのデファクトスタンダードといえる存在だ。



テレホンマスター Ver.8.0ではレジスター機能が標準でサポートされた

開発元のテラ、ソリューション事業本部の虫鹿浩課長は「携帯電話ショップの店舗数は減少してきているので、テレホンマスターの販売もそろそろ頭打ちになると予想していたが、逆に最近になって引き合いが増えてきた。市場環境が厳しくなる中で、確実な在庫管理を行えるシステムへのニーズが高まっている」と話す。

レジ機能搭載で即時入力

テレホンマスターは発売以来、8度にわたり市場環境の変化やユーザーニーズを反映した機能拡張を行ってきたが、今年11月発売される最新版のVer.8.0では、大きな進化を遂げることになる。

最大の進化がレジスター機能の標準搭載だ。これは、テレホンマスターをインストールしたPCにオプションの金額表示機やレシートプリンター、キャッシュドロアなどを接続してレジとしても使えるようにするもの。

現状では、ユーザーは1日の作業が終わった後、販売状況を場合によっては数日分まとめてPCで入力するのが普通だが、レジ機能を活用することで販売と同時にデータ入力が可能になる。これにより入力ミスを防げるだけでなく、販売、在庫の状況もリアルタイムで把握できるようにな

る。また、レジ機能をオンラインで会計システムなどと連携させることも可能になるという。

さらに、Ver.8.0では顧客管理システムも強化され、新たに店舗独自のポイントシステムを構築できる機能もサポートされる。

多店舗展開にVPNで対応

Ver.8.0で提供されるこれらの新機能を多店舗展開時に活用できるようにするのが、オプションで提供されているネットワークソリューションだ。

これは既存の電話線を活用して常時接続を可能とするADSLを各店に導入、インターネットVPN技術により安全でしかも安価に本部との間を結びクライアントサーバーシステムの構築を可能にするもの。中継サーバーを設けることで店舗でも本部のLANと同等のレスポンスで入力業務を行えるようになるという。

Ver.8.0の登場でテレホンマスターは、単なる販売管理ソフトからまさに携帯電話販売業務の基幹システムに進化するといえそうだ。

お問い合わせ先

株式会社 テラ
ソリューション事業本部

〒221-0832 横浜市神奈川区桐畑3-6
TEL: 045-412-2233 URL: <http://www.terracom.co.jp/>